

## 令和元年度北方四島交流第2回一般訪問事業に参加して

広島県地域女性団体連絡協議会 福本 アヤ子

出発予定（8月14日）の前日、折しも台風10号が接近とのことで、急きよ「前日までに札幌に入るように」との連絡を受けました。1日前倒しのため大急ぎで身支度をし、何とかチケットの手配もでき、今回同行の3名とその日の夜遅く新千歳空港に到着しました。

### 8月14日。

私の地元では「盆踊り大会」の行事があるため、台風の影響で中止又は延期などの情報（振興協議会副会長の立場上）が随時入ってきました。遠く離れた地ではどうする事もできず状況を聞くのみでした。

新千歳空港から空路で中標津空港に向かいました。空は台風の影響は見られず無事到着。根室行きのバスの車中で盆踊り大会の中止決定が入り、状況がわからないまま電話やメールで連絡し、ひとまず安堵。根室市役所で下車（乗客全員が交流事業参加者でした）。千島会館で手続きを済ませ、荷物を宿に置き、迎いのバスでニホロに向かいました。

ニホロでは結団式と事前研修会が行われました。

今回の団長は6回目の訪問となる富山県の大野黒部市長で、「軽はずみな行動をとらないように」、そして、「自ら住民に北方領土問題についての議論はしないこと」、「ロシア人に問われた時には日本の島であるとハッキリ言う」と、挨拶で注意喚起されました。富山県は北方四島出身者が北海道に次ぎ2番目に多い県だと知り、今回多数の富山県民が参加されているのに納得です。

続いて、事前研修会です。東海大学の山田吉彦先生が逆さ地図を使って日本の周辺海峡とロシア・韓国・中国との関係を分かり易く講義されました。私は今回、再び「北方四島交流事業」に参加のチャンスをいただきました。前回3年前に講師の山田先生とご一緒し、再度ご一緒できよいご縁をいただきました。

今回、富山県が主となりロシア人との住民交流会が行われる予定で、その協力者の募集があり、広島県からの同行3人で「釣りっこ」のお手伝いに手を挙げました。

事前研修会が終了した頃は、もう夜の帳が下りて辺りはまっ暗闇。明日は8時30分集合です。

### 8月15日

5時半起床。6時朝食。

集合時間と同時に2台のバスに大きな荷物を積み込み琴平町岸壁に出発。「さあ！今からは規律を乱さない北方四島交流団体の一員」、気を引き締めて！

「えとぴりか(交流船)」に荷物を預け、通し番号順に整列し出発式に臨みます。

そして、乗船。デッキに出ると、「ふるさとの四島へ行ってらっしゃい」と書かれた横断幕で多くの人に見送ってもらい、岸壁が見えなくなるまで乙女のような黄色い声で「行って来ま〜す」と手を振って答えました。

同じ船にロシア人も乗船すると聞いていました。その中の若い男性に声をかけると、笑顔で「日本語むずかしい」と言いながらも、たどたどしく「学生で夏休み中」と答えてくれました。会話集を片手に「年齢は?」「兄弟は?」など矢継ぎ早に質問し、最後の「ハンサムだね!」には「ありがとう!」と日本語で即答。以後も食堂やロビーで顔を合わせることがあると笑顔を返してくれました。国は違っても人と人は繋がっています。



しばらく大海原を眺めていると、見事なイルカショーを見ることができ、感動しました。

船内に戻り、割り当てられた1階の4人部屋の客室でそれぞれ自己紹介をし、ベッドを決めて荷物の整理をしていると、食堂に招集との船内放送がありました。船の安全説明とロシア語講座です。一生懸命勉強するも…。残念ながら覚えられたのはスパシーバ（ありがとう）くらい。

そして昼食。えとぴりかで初めての食事。ここ2〜3日まともな食事をしていなかったなので落ち着きました。前日の事前学習会で知り合った人たちと契りを交わしました。

入域手続きの連絡があるまで船室で横になっていると、ド〜ンド〜ンと船底が波にぶつかる音がし、何だか韓国のセウォル号の事故が頭をよぎり、安全のため入り口のドアは少し開けての部屋利用としました。

スマホの時刻もいつの間にロシア時間(時差=2時間)に変更となっていました。

間もなく「入域手続きに入るので食堂は立ち入り禁止」の放送があり、暫くして番号順に並び面通しです。緊張しました。

2班に別れて迎えのはしけに乗船。霧雨の降る肌寒い船上から見る古釜布は3年前とは若干建物が増えた風景に見えました。下船(古釜布上陸)後も順に面通しです。

トラックに荷物を積み込む様子を見て、「まさか、これがトラックバス?」と疑惑を抱きましたが、実際の「トラックバス」は大型トラックの荷台をバス風に改造した乗り物でした。乗降の梯子は高く、足の短い私はやっとのことで登ることができました。狭い車内の窓から見る道路は3年前と殆ど変わりなく、建設中だった建物は無論完成していました。



「友好の家」に到着すると、前回あったロシアの民族衣装を着た女性が大きなパンで歓迎してくれた光景は今回は見られませんでした。

落ち着く間もなく、例のトラックバスに乗って大きい立派な文化会館に案内されました。広いホールで歓迎式典が行われ、若い女性のアンドレエワ副地区長と大野団長の通訳を通しての対談です。アンドレエワ副地区長は「ロシア政府は

住民たちが生活に満足できるよう、インフラなどに多額投資をしている」との内容の話をしました。裏を返せば、島に永住させる目的ではないかと受け取ることもできるのでは…。最後は、お互いの郷土自慢品を交換し握手で終わりました。

雨の中、「友好の家」に戻りここで初めての食事、夕食です。メニューは黒パン、クレープにジャム、スープの様なジュースの様な甘い飲み物、千切りジャガ芋とキャベツの入ったサラダです。黒パンのお代わりをし、食後のコーヒーもいただきました。

夕食後、「北方領土語り部2世」本田さん(今回参加される予定だった得能宏さんの代理)の講話を聞きました。母親が歯舞群島出身で、終戦後ロシア人に占領され、住民は真っ暗な海から脱出したり、亡くなった人も大勢いたそうです。追い出されたのです。

3年前、私は得能さんとご一緒し、ご自身が実際に体験された話を聞きました。当時、色丹島の小学校4年生で、授業中ロシア人が銃を持って教室に土足で入って来たそうです。家では自分たちは馬小屋の2階で寝起きし、暫く同居生活を強いられたとか。その後、船に載せられ日本に行くのかと思いきや着いたところは厳寒のサハリン州だったと…。生き残ったのは僅かで大変苦勞されたというとても悲しい、悔しい話でした。

本田さんは「多くの方は、四島でなくて二島でも良いというが、四島一括返還でなくては意味がないのです。行く行くは、尖閣諸島・竹島問題にも繋がってくるのです」、「元島民の方も高齢になり、語り継ぐことが難しい」…と続けられました。広島の被爆体験証言者が少なくなっているように、どこも同じですが、何とかして語り継いでいかなければ今までの活動が無になってしまうと思います。得能さんの言葉を借りると「北方領土問題は、根室だけのローカル運動ではないんだ」。私たちも微力ではありますが結集すれば大きな力となるので、出来る事を見つけて活動しなければと思います。

外は雨と風が出て来た模様。遂に台風10号の到来？！

## 8月16日。

日本時間で5時半起床。6時から朝食です。

7時過ぎ、雨の中トラックバスに乗ってスポーツ健康施設の視察に。島民の健康増進を目的として多額の予算で建設されたスポーツジムで、トレーニングマシンなどが置かれ、プールなどは我が片田舎では見られないような立派な設備でした。南クリル地区には3つの施設があり、国後島にはこのような施設が2つもあるそうです。ここでは27名の従業員が働き、年間52日の有給休暇があるとの事。衛生管理も徹底されていて、低額で利用でき、年間2.5万人が利用しているということでしたが、人口に対して利用者が多い気がしました。その証拠に、まだ9時過ぎで時間が早いのか2~3人しか出会うことができませんでした。ここも政府が国民を繋げるための目的施設かと穿った見方をしてしまいました…。

次に、小雨の中ロシア正教会へ。女性が教会へ入る時は帽子やスカーフなどで髪を覆うようにと言われ、準備がなく戸惑っていると「洋服のフードでもいいよ」と誰かが私の頭に着ている服のフードを後ろから被せてくれました。勝手な思い込みなのですが、説明をしている牧師さんが私ばかり見て話しているような気がしてならない…。説明が終わり「この上で3人だけ鐘を鳴らすことができます」とみんなに呼びかけられた時、「実は3年前、私は牧師さんと登って鳴らしました」と通訳さんに話すと「覚えています」と嬉しい言葉が返ってきたので、「やっぱり！それで私を見ていたの」と感激しました。と言うことで、再開の記念写真を「ハイ、パチリ！」。2回会っただけでは友好関係



とは言えないけれど、回を重ねるうち知り合いから友だちになれるかも！

続いて、こども園のソルヌイシコを視察。大きな立派なプールや遊び場・広い廊下等々多額の建設費で住民たちに充実した子育て支援をしているのでしょうか。いや訪問する日本人に対してのアピールのように受け取ってしまいました。教室では10人程のこども達が遊んでいましたが、丁度昼食時間で遊びを止め配食された席に着くところでした。確か今、夏休み中の筈。何故今ここに、これだけのこども？もしかしてエキストラ？チョットずれた見方をしたかな？？

前が見えなくなるほど降る雨の中、車中より古釜布墓地墓参となりました。残念です。

午後からは住民交流会ということで文化会館へ。壇上には日本とロシアの国旗が設置されていました。会場には30人程の老若男女のロシア人が入って来ました。風光明媚な富山県と、昨年富山県でロシア人を受け入れた様子を映像で紹介されました。そして、独特な獅子舞を披露された後、子どもたちは獅子に噛んでもらったり、準備された法被を着て鉢巻を締め嬉しそうに写真に収めていました。これぞ無言の交流です。

その後、「万華鏡」「スポーツ」部門に分かれ、私たちは「釣りっこ」担当なので早速準備に掛かり、少し釣りの練習をしてルールを決め待ちました。随分長い時間待ちましたが、肝心のロシア人が誰一人として現れない。暫くして「万華鏡」を作り終えた人たちが一気になだれ込みどたばた騒ぎ。勝手気ままに行動し、私たちや通訳さんの言う事も聞かない。静止してもダメ。そこで、自信のある日本語とジェスチャーで何とか格好がつきゲーム開始。決めていたルールも臨機応変にし、言葉が通じないまま顔を見合わせて喜んだり、残念がったりで賞品のおやつを渡して任務終了。対話はなく、ふれあいかな？交流かな？でした。

レクリエーションとして急きよ組まれた障害物リレーには多くの日本人、ロシア人が参加し楽しんでいましたが、私は「釣りっこ」で疲れてぐったり…。

帰りの廊下で偶然にも、万華鏡づくりに参加されていたロシア正教会の牧師さんと再会し、またまた感激！

商店視察は視察ではなくショッピングでした。換金した2千ルーブルで何が買えるのか、人の持っている物を求めて行ったり来たり。狭い店内はひしめき合う日本人ばかり。楕円形の大きなスイカにはびっくり！！傷んだリンゴや野菜

もあり、冷凍庫には大きな塊の肉がありました。

台風のもたらす雨により、「友好の家」へ直行。日本時間 5 時から「友好の家」で夕食となりました。

## 8 月 1 7 日。

日本時間 5 時半起床。6 時朝食。

雨の中、郷土博物館を視察。知床半島に生息するような動物や植物が展示されており、近いだけによく似ていると感じました。生活用品の展示では、明らかに占領される前に日本人が使っていたと見て取れる物が至るところにあり、「これって、もともと日本人のものであり、占領によって奪い取られてしまったのか」という、無念に近い思いがよぎりました。

次に、中央図書館へ。館内には日本の童話や小説等々をよく見えるところに展示してありました。館内の説明より大きなテーブルでの話で盛り上がっていたようです。丁度そのころ、私は狭い所に大勢の人でごった返していて、息苦しくなって席立ちをして内容は不明。

「友好の家」に戻り軽く昼食をして、いよいよこれからお楽しみのホームビジット。小雨の中、37 歳会社員の奥様の運転で 40 歳のご主人とともに私たち 3 人を迎えにきてくれました。ホスト宅では、16 歳の長女、7 歳の息子、奥様の妹の甥と姪が歓迎してくれました。

部屋に入ると、オール電化でとても綺麗なキッチンや大きな画面のテレビが 2 台も。さらにもう一人「お父様？」とおぼしき人が…。聞いても返答はありません。当然日本語だから…。



荷物を置くと、見せるかのようにオープンしたままのトイレの前を通り、早速洗面所に誘導されました。そしてダイニングに案内。手作り料理が所狭しと並んでいます。持って来たお土産を渡し終えたら、お返しにホストさんからお土産をもらいました。

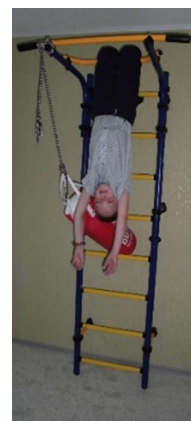
そこへ通訳さんと北対協事務局の方がやって来られ、「今日は国营放送が取材に来ています」と紹介されました。実は「お父様」と思った人は放送局の人だったのです。同行の佐藤浩子（広島県女性団体連絡協議会会長）さんとの会話が主で、私は隣の席のお調子者の彼（甥っ子）がちょっかいを出すのでお相手中。日本の事を聞いたり交流場面の動画を撮ったりしていましたが、いつの間にか去っていました。

長女の手作りの大きなホールケーキをいただき、ご主人には側からクレープなど勧められました。中でも美味しかったのは、こぼれる程イクラをのせて食べたパン。とても贅沢！でした。長女はピアノが得意だと韓国の「冬のソナタ」を弾いて聞かせてくれました。私も 65 歳から習い始めたピアノを弾きたいなと思いましたが、招待された側なので遠慮しました。



次はお茶目な彼が体力づくりのために部屋に作られた自慢の登り梯子？を上手に登りぶら下がったり体操選手のような技を次々と披露してくれました。

プログラムが組んであるのか、次の部屋のテーブルにはお絵描きの準備がしてあり、姪っ子が先生で、好きな色鉛筆を選び渡された紙に先生の言う通りに線を引き、書き上がった絵は何とそれぞれ違ったフラミンゴとなりました。先生の指導は大変良かったのですが、生徒の私



たちは「これ何？」と言った具合の悲しい出来上がり。書き上がった絵は飛び出さないように袋に入れてお土産になりました。

リビングに戻り「日本の歌を歌おう」と私たちが「さくら」を歌うと、「ロシアにも桜の木があり咲く」と幼いころ桜の下で写った写真を持って来て見せてくれました。その桜はソメイヨシノのような派手さはありませんでした。

「家族で札幌に行った事がある」だとか「日本はきれい」とかハンドブック片手の会話です。感じのいいご家庭で手厚い接待を受けましたが、ハンドブックに載っている単語を探すのと話したい単語が見つからないのとで時間を要し、話した気がしませんでした。メールアドレスと電話番号を書いてもらうと「名前はアンナさん」とご主人が「さん」付けで教えてくれました。

いつの間にか時が経ちお別れです。お礼に3人で「北国の春」を歌唱。しっかりハグして送ってもらいました。お家は、コンテナを3台連結し、中を抜いて広い部屋にしていました。とてもコンテナハウスには見えない居心地の良いお宅でした。ただ、自宅から大通りまでの小径は舗装もなく、車に乗っていて飛び上がる程険しく揺れる個所があり、雨で流れる足元の悪い道などは、最近日本の田舎でもあまりない程の悪路でした。

台風のため結局「友好の家」で3泊することとなりました。夜は、団員同士の交流会となり親しくなった人たちで小宴会を楽しみました。

## 8月18日。

日本時間6時半起床、7時朝食。いつもより1時間遅い。

8時30分荷物をまとめて古釜布港に出発。2班に分かれて面通し後、はしけに乗船。

海の汚いこと。臭いこと。まだまだ下水が完備されておらず、垂れ流しだと聞きました。そう言えばトイレで、ペーパーを流さないよう注意がありました。それにしても本当に汚い。

色丹島に向けて5時間余りの「えとびりか」の船旅。前回は港が近い海岸端に廃船が放置されたのを見ましたが、今回それは見当たりませんでした。色丹の海は古釜布に比べるととても綺麗でした。

埠頭には、2世の本田さんを迎える家族がいました。歯舞出身という彼女と色

丹島のロシア人とどう言う繋がりだろうと尋ねたら、「何回も訪問しているうち親密になり、今では家族の様な関係」だと。これが交流事業の成果だと思いました。

それぞれ迎えの車に分乗し、雨の中、斜古丹墓地に向かいます。前回未完成だった大きな病院も完成していました。病院完成は日本に帰って水産加工場完成と共にニュースで知りました。

雨の中、斜古丹墓地での墓参です。草はきれいに刈られていて、先ず得能家のお墓にお参りし、他の方のお墓も順番に手を合わせて回りました。上の墓石がなく台座だけになっているのはロシア人が家を作る時の土台に使ったからと得能さんが話されたのを思い出しました。ロシア人墓地は草ぼうぼう。

帰り道、煙が上がっているゴミ置き場かゴミ処分所のようなところが見え、環境整備はまだまだ遅れていると感じました。前後になりますが、このことは北方領土から広島へ帰る途中の8月20日朝、宿泊していた札幌のホテルで、NHKニュースで放送されていました。日ロ両政府による北方領土での共同経済活動の5項目のうちのひとつであるゴミの問題で、「サハリン州の政治家が根室市長と会談した」とありました。根室市長は「ごみ処理に積極的に関わりロシア側と信頼を深め

ることで平和条約の締結に繋げていきたい」



と、ロシアは「具体的に見たい日本の技術はごみの減容圧縮やリサイクル保管の技術」と発言していました。

最後の行程は色丹島商店視察。残ったルーブルを全部チョコに使い、交流事業も終わりです。

この度の北方四島交流会事業に参加して、「交渉は国の仕事」、私たちは「民間交流」、と立場は違い、また参加した人の中にも、政治家・会社員・公務員・報道関係・団体役員など様々で、例えば私のように、一主婦の目で見ても上手に表現できず文章にも問題あります。政治家・報道関係の人とは視点が違い同じ団員でありながら大変申し訳ない気がしています。

今回は2度目ということで、ある意味見方が違うかと楽しみに参加したのですが、残念なことに台風に遭遇しロシア人との交流はなく視察が主となり思いが叶いませんでした。

政治家は政治の世界で対話を続け、民間は交流を途切らせることなく、続け「早期一括返還」が実現するよう私も発信して行きたいと思います。